

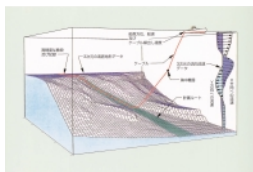
ケーブルや中継器の開発とならんで、敷設の安全性と精度を高める研究が進められた。
1971年、新開発の埋設機によって呉ー松山間に全長31kmの海底ケーブル埋設に成功。
1975年には敷設船 黒潮丸 が建造されて水深200mまでの埋設が、1985年には
埋設機を改更して水深600mまでの埋設が可能になった。
1995年に建造された すばる では、水深1,500m、深度2mまで埋設が可能となり、
漁具の被害を防いでいる。



海底ケーブルの陸揚げ作業
沖合の敷設船は すばる



埋設船 すばる
ダイナミックポジショニングの装備で定点維持が可能となり、
敷設精度が飛躍的に向上した。総トン数9,557t。



敷設支援システム
複雑な海底状況からケーブルの位置をシミュレートし、敷設状況を
3次元で捉えて敷設船を誘導、敷設オペレーションを最適化する。



海底ケーブル埋設システム SEAMOLE
水深1,000mまでの海底でケーブルの調査と埋設を行う。砂・泥の海底ではウォータジェット、岩・礫の海底ではカッタを使用、2mの深さまで埋設。水中カメラによる調査やマニピュレータによる作業も可能。



鋤式ケーブル埋設機(P-6)
水深1,500mまで、高速でケーブルを埋設する。